

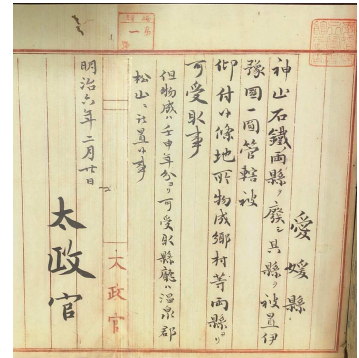
愛媛県行政資料電子化事業

図書館

1 愛媛県行政資料（藩政期・明治期）の電子化とは

愛媛県立図書館は、藩政期から明治末年に至るまでの愛媛県行政文書 4130 点を所蔵しており、これらは県政の足跡を示す重要な記録です。例えば右上の資料は、「伊予国一円を管轄する愛媛県を置き、その県庁は松山に置く」という内容を記した明治6年の国からの通知文書です。私たちの住む愛媛県は、こうして設置されました。右下の図は、松山に置かれた武家屋敷のような佇まいの、初代の県庁です。

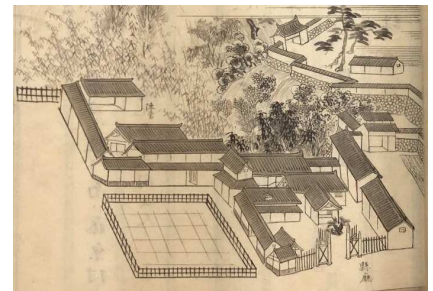
このように県立図書館には、世界でただひとつだけ、ここにしかない資料が多くあります。この貴重な地域の資料を守り、後世に伝えるための重要な手段として、平成 25 年度から、助成事業やボランティアの皆様の御協力により、資料の電子化を進めています。



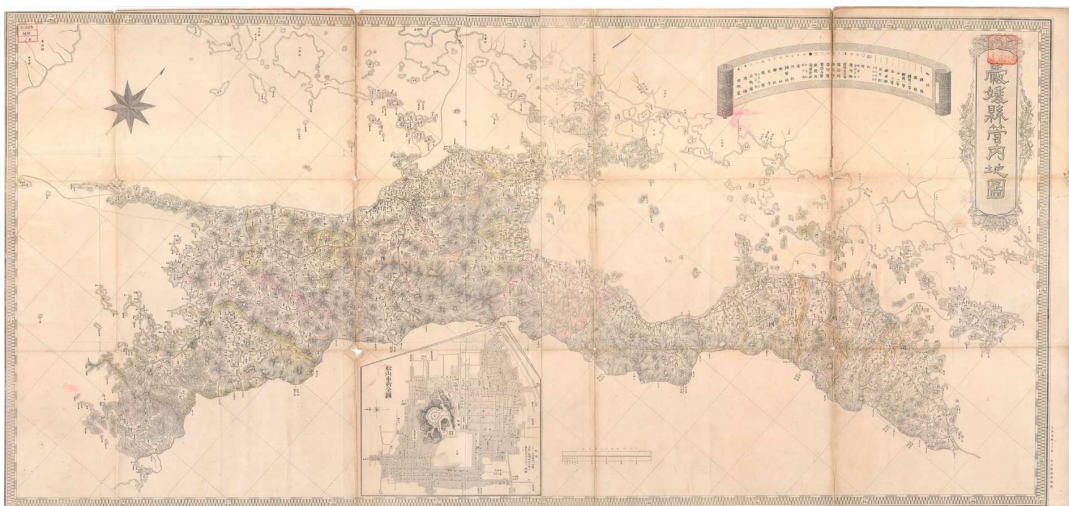
「[各]省書取達」 M00-24-2

2 愛媛県立図書館デジタルアーカイブ

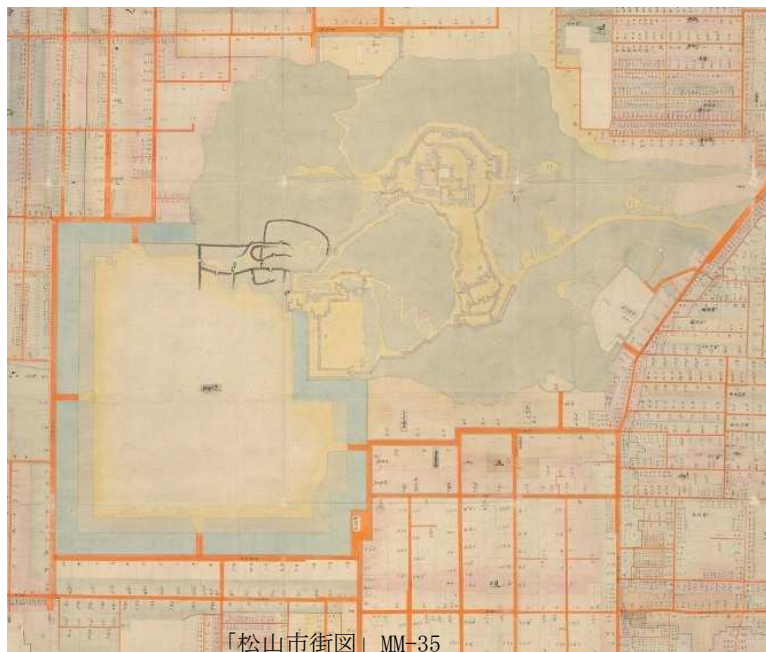
行政資料には、絵図もあります。県内の絵図 115 点については、「愛媛県立図書館デジタルアーカイブ」で、web 公開しています。県全体、郡単位、村単位の絵図をはじめ、今治や宇和島の城郭図、近代化産業遺産になった釣島灯台（松山市）や市指定記念物である樺崎砲台（宇和島市）の図、高知との境界争いが江戸時代より続いた沖之島の図など多彩な内容となっています。下の図は、香川県が愛媛県だった頃のものです。



「地理図誌稿」 M05-22-15



「愛媛県管内地図」 MM-1



左の絵図は、明治の松山市街図です。現在も使われている地名や、松山城、堀之内、県庁、主要道路など、現在とあまり変わっていないところも多くあります。現在の番地とは異なりますが、住宅地図のように、番地ごとに区割りしてあり、県立図書館所蔵の同時代の土地台帳と照らし合わせると、誰がどこに住んでいたのかが判ります。

「愛媛県立図書館デジタルアーカイブ」

<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/3800115100>

3 近年の取組について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金により、土木関係資料 508 冊の電子化を行いました。これらの資料は折りたたまれた図面が多く、閲覧することが容易ではなく、図面にとっても「広げたり、畳んだり」を繰り返すことは、資料への負担が非常に大きく、劣化する原因のひとつとなっています。このため県立図書館では、資料を電子化して館内の端末で利用することにより、出納や閲覧等にかかる時間を短縮し、長時間滞在の抑制を図るとともに、より多くの県民の皆様目の触れる機会を増やし、図書館サービスの向上に繋げることとしております。

